



小学生バドミントン通信

NO.24 2022.12

発行：日本小学生バドミントン連盟 会長 黒川 茂

勝ちたい気持ちが強いチームが必ず勝つ

西尾ジュニア 男子監督 岩 野 晃

西尾ジュニアは森川監督のもと1999年に立ち上がり、今年で創設23年目になります。創設当初は少人数で特に男子部員は非常に少なかったです。

当時は県大会の上位に入ることも殆どなく、ましてや低学年から高学年までのメンバーで構成しないといけない若葉カップには予選すら参加できませんでした。しかし、昨今のバドミントン人気もあり部員が徐々に増えてくると、指導体制も整ってきたことで結果が伴ってくるようになりました。

子供達の意識が向上し、それに影響されて保護者方の情熱も強くなってきたことで県大会上位や全国大会に出場する選手が沢山増えてきました。

そんな中、3年前初めて男子が若葉カップに出場することができました。この時は第二代表として出場しましたが予選リーグで敗退し、全国の厳しさを味わった大会となりました。

この悔しさを晴らすべく、日々の練習に取り組んできましたが、翌年はコロナで大会中止、昨年は県予選敗退となり我慢の年が続きました。

そして今年は6年生のU13の彦田を中心に4年生には上位学年とも互角以上に戦える玉城、角倉、山田の3人を揃え安定してシングルでポイントを取れるメンバーを構成することができました。県予選では3年前の全国優勝チームのはりーあつぷとの激戦を制することができ、チーム全員が全国で上位入賞を目指せるという自信を持ったと思います。

そして迎えた本戦、いきなりアクシデントに見舞われました。4年生の1番手の玉城が初戦直前に足を負傷してしまい、チームに暗雲が立ち込みました。しかし、当初5年複を予定していた4年生の山田が4単で踏ん張ると課題であったダブルス陣も奮起してくれました。アクシデントをキッカケにチームの結束力が向上できた様な気がしました。

そして順調に決勝に進むことができましたが、相

手は同じ愛知のはりーあつぷを3-0で倒した名門の福岡の岡垣ジュニアです。ダブルスを2つ落とすとかかなり厳しいと思っており、それまで怪我を考慮して出場させていなかった4年生の玉城を5年複に出場させることを決断しました。

6年単、4年単を連取して迎えた5年複、ペアは玉城と実力差がある小島でした。当然狙われることは必至、1ゲーム目は接戦で先取するも2ゲーム目は完全に狙われてしまい手も足もできませんでした。本人も心が折れかかっていたと思いますがファイナルでは必死に前衛にはいり、相手に球を上げさせることに徹し、後衛で玉城が決めるという理想的な展開に持ち込み見事に勝利して優勝することができました。

本大会期間中“勝ちたい気持ちが強いチームが必ず勝つ”と選手達に話してきました。今回の優勝は全員が有言実行した結果だと確信しております。

最後になりますが、コロナ禍の中、大会を開催して下さった大会関係者の方々に感謝を申し上げます。来年も“気持ちの強いチーム”で再びこの舞台に出場出来る様に選手・保護者・監督/コーチが一丸となって頑張っていきます！





ピンチをチャンスに！ 反撃開始！！

はりーあつぷジュニア 女子監督 馬場直樹

はりーあつぷジュニアとして、第35回大会の男子に続き女子チームとしては初の快挙となりました。出場した選手達は、ご承知の通りコロナによる練習制限をとっても受けた世代です。思い返せば、2020年3月には施設が利用不可になり、不安を覚えた日々が続きました。しかし、チーム一丸となり反撃開始！！『ピンチをチャンス』に。シャトルが打てない中、無心にランニング練習に取り組み、また芝生上でのフットワークなど、沢山力を蓄えることが出来る期間となりました。全国的に大会開催が中止されている中、愛知県小学生連盟の種々の工夫を凝らし大会を開催頂けたことで同じ志を抱いた選手との交流を重ねることが出来、喜びと悔しさを体験させて頂くことが出来ました。気が付けば、県内大会では上位を占めるまで実力が付き今大会での躍進に繋がったのだと思います。

また、今大会は、はりーあつぷジュニア男子チームと揃って出場することが出来ました。日頃からお互いに刺激しあって練習を重ねている男子が、本大会では先陣を切って試合に挑み、勝利をもぎ取ってきてくれておかげで大きなパワーを貰い『男子が勝ってるから、女子も絶対に勝つぞ！！』と良いムードが芽生えました。残念ながら男子は準決勝で敗退してしまいましたが、2Fの観客席から男子チームの心強い応援が大きな励みとなり、決勝戦では勢いを止めることなく全てを出し切る事が出来ました。子供たちから中口コーチへ『優勝』という最高のプレゼントが出来たと思います。

最後になりますが、コロナ過においても日本小学生バドミントン連盟及び、若葉カップ全国小学生大会開催にご尽力頂いた関係者様へ心より感謝申し上げます。





2022年度の大会記録



第38回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

(主催：日本協会・日本小学生連盟・長岡京市)

2022年7月29日～8月1日／京都府長岡京市・西山公園体育館

【男子の部】

- 優勝 西尾ジュニア (愛知県)・・・初優勝
- 2位 岡垣ジュニア (福岡県)
- 3位 小平ジュニア (東京都)
- はりーあつぷ (愛知県)

【女子の部】

- 優勝 はりーあつぷ (愛知県)・・・初優勝
- 2位 SJBC (兵庫県)
- 3位 渋谷ジュニア (東京都)
- 堀川南ジュニア (富山県)

第23回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会

(主催：日本協会・日本小学生連盟・八代市)

2022年8月13日～14日／熊本県八代市 八代市総合体育館 ほか

【男子Aクラス(5・6年生)】

- 優勝 松下 一誠 (北北海道)
- 2位 小川 真輝 (広島県)
- 3位 串間 太政 (宮崎県)
- 有江 桜空 (埼玉県)

【女子Aクラス(5・6年生)】

- 優勝 櫻尾 雫玖 (愛知県)
- 2位 河村珠莉奈 (愛知県)
- 3位 高田 万智 (愛知県)
- 板橋 ゆい (宮城県)

【男子Bクラス(3・4年生)】

- 優勝 玉城 春真 (愛知県)
- 2位 平嶋 天嘉 (和歌山県)
- 3位 城倉 遙輝 (長野県)
- 佐野 健太 (東京都)

【女子Bクラス(3・4年生)】

- 優勝 阿波柚子菜 (福岡県)
- 2位 尾田菜乃遥 (石川県)
- 3位 山上 陽莉 (神奈川県)
- 舛田 舞羽 (富山県)

【男子Cクラス(1・2年生)】

- 優勝 松木 琉森 (東京都)
- 2位 池山 和輝 (三重県)
- 3位 田中 朝陽 (福岡県)
- 岡部 大和 (福井県)

【女子Cクラス(1・2年生)】

- 優勝 宮下 蒼夏 (愛知県)
- 2位 木城 悠 (千葉県)
- 3位 岡 優羽歌 (岡山県)
- 山口 怜 (新潟県)



最後の八代市開催となったABC大会

小学生の夏と言えば、「長岡京市の若葉カップ」、「八代市のABC」というのが定番の大会です。八代市での「全国ABC大会」は2007年(平成19年)の第8回大会に始まり、途中地震による被害やコロナでの代替大会として他の市で開催されましたが、それ以外はすべて八代市での開催となりました。コロナの関係からトーナメント戦で行われた今年度の大会が八代市での最後のABC大会(通算12回開催)となりました。

長きにわたりABC大会を開催された熊本県、八代市及び関係のバドミントン協会に心より感謝申し上げます。日本のバドミントン界を見ても八代市での「ABC大会」を経験した選手が、現在社会人や大学、高校、中学で活躍しています。よい環境をありがとうございました。

ABC大会では、コロナ禍で思うように練習ができなかった中でも地道に練習に取り組み、若葉カップで実戦を積んだ選手が活躍していました。各選手の粘り強い頑張りを感じました。

次は、12月に金沢市で行われる「全国小学生大会」。4・5・6年生以下の男女シングルス・ダブルスの12種目が行われます。誰がチャンピオンになるのか?熱い戦いを期待しています。

【日本小学生バドミントン連盟 広報部 熊谷敏夫】



令和4年度日本小学生バドミントン連盟 強化部の事業報告

日本小学生バドミントン連盟強化部員 松原卓也

1. 令和4年度 第10回U-13選抜強化合宿

令和4年8月1日～4日（京都府長岡京市・西山公園体育館）

役員7名 選手41名

2. 令和4年度 第21回選抜強化合宿

令和4年8月14日～17日（熊本県八代市・八代市総合体育館）

役員10名 選手49名

コロナ禍で様々な影響を受ける中、令和4年度は、ようやく若葉後とABC後の日小連合宿を両方開催することができました。感染対策として、毎朝夕の検温、休憩毎の手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保、黙食の徹底などを行いながら実施しました。

日小連の合宿は、U13の選手と、全国小学生大会や全国ABC大会で実績を残したU13に選出されていない選手が混ざって行うため、普段とは違うメンバーとなりますが、その中で切磋琢磨していくことは大変有意義だと感じました。普段と違うメンバーであるため、最初は自分を出せずにいる選手もいましたが、生活を共にするうちに徐々に打ち解けて、お互いに声を掛け合い、良い練習ができていたと感じました。特に男子は打ち解けるのが早かったです。

練習は、選手の人数が多いため、男子がコートワークをしている間、女子は体幹、縄跳び等のトレーニングを行うな

ど、コートや時間を効率的に使うように心がけながら練習を行いました。また、選手同士のパターン練習が多くなるため、内容を複雑にせず、シンプルなメニューにし、集中力が散漫にならないように、取組姿勢について多く声をかけるようにしました。

全国各地から選手が集まる合宿を行うことで、お互い刺激し合い、競技力及び人間力の向上が図られることは、未来ある小学生にとっては貴重な経験であり、日本のバドミントンの発展のためには、今後も継続して行っていく必要性を感じました。



日本小学生バドミントン連盟 事務局

〒068-0025 北海道岩見沢市5条西13丁目20番地 下野和義 気付

TEL：0126-25-0089 FAX：0126-25-4710

<http://www.syoubad.jp> E-mail：shimono@syoubad.jp